

巻頭論文

モバイルコンピュータの動向と当社の取組

秋田興一郎 情報システム製作所 マルチメディアインフォプロダクツ部長(工博)
(現 三菱電機エンジニアリング(株))
小島光喜 情報システム製作所 マルチメディアミドルウェア課長

安くて高性能なパソコンが入手できるようになり、電話回線経由で電子メールやインターネットの利用が普及している現在、真のBPR(Business Process Re-engineering)、すなわちオフィスのみならず現場での即時情報処理が現実のものになってきた。モバイルコンピューティング時代の到来である。

この論文では、モバイルコンピュータを電子手帳の類の携帯情報端末と区別して定義し、デスクトップパソコンと同じデファクトスタンダードなオペレーティングシステムを搭載、オフィスにおけるパソコンと同様な処理能力、操作性を持つ小型・軽量のパソコンとして、その実現のための要素技術を概観する。

高性能な処理能力を持ち低消費電力のMPU、見やすいカラー画面のLCD、携帯用に必ず(須)のバッテリー、現状可能な通信手段、PCMCIAカードのレパートリなどである。

また、モバイルコンピュータの実用機として、三菱電機の“AMITY”シリーズ/モデルSPと、現時点での最新機種であるモデルVP、モデルCNを取り上げ、コンセプトから解説する。さらに、モバイルコンピュータとして重要な機能である、音声認識、セキュリティ、信頼性ある通信方法などにつき、AMITYシリーズで実現した特長を紹介する。

最後に、モバイルコンピューティングの適用事例として、外勤営業、保守・点検・修理、記録・データ収集、物流(運輸・配達)管理、個人の情報管理・通信などの業務を紹介する。